

教職員・保護者共通

○保護者、教職員共に最上位に「健康管理上の連携」や「健康への配慮」が挙げられ、共栄分校の実情と課題について保護者と教職員で共有しながら取組み、成果が評価されたことがわかる。

●比較的评价が高くなかった項目として、保護者と教職員ともに「ICT の活用」に関する項目が挙げられた。これについては今年度の動きとして、全児童生徒用 iPad へのドロップトーク（コミュニケーション支援アプリ）の導入や、PTA からの補助も受けながら、iPad 用スイッチを整備したが、効果としてはまだまだ上がっていない実情を示していると考ええる。これは顕著な低評価ではないが、ICT の活用には継続的な努力が必要と考ええる。

保護者

○全体として大変高い評価である。

○上位に「子どもは楽しく学校に通っている」と「個別の支援計画の適切な運用」および「参観の機会の提供」「PTA の効果的取組」にも高評価を頂いており、小規模の学校ならではの、御家庭と学校との強い連携の成果現れていると考ええる。

教職員

○「感染症対策」と「適切な医療的ケアの実施」と「災害・事故への訓練」の項目が上位を占め、共栄分校として。「健康」「安心・安全」および「感染症対策や防災」に力を注ぎ、効果を上げたとの自己評価のとおり、今年度これまで大きな事故がなく、感染拡大も最小限に抑えられた結果への評価と考える。

○「児童生徒がやりとりする力を身につけている」の項目が上位にあることは、今年度「児童生徒一人一人の意思表示や表現活動を引き出す授業づくり」を研究テーマとして、全校挙げて効果的な授業づくりに取り組んだことへの自己評価であると考ええる。